

つばさ「がんと妊孕性」セミナー

第2回：「小児・AYA世代のがん患者等に対する妊孕性温存療法に対する費用助成制度」 生殖医療と始まった助成制度について学ぶ



日時 2021年6月26日(土) 14時~16時30分

会場 フクラシア八重洲

同時配信



つばさチャンネル(つばさYouTube)

<https://www.youtube.com/channel/UCiHgaJ-gOcMlenYixl-OtcQ>



つばさは、19年6月1日に「小児がん・若年がん罹患者の妊孕性温存への保険適用」を厚生労働省に申請し、同年8月より署名活動を開始しました。それから第1回セミナー(20年1月30日)で「がん治療と妊孕性(精子・卵子保存)の必要性と支援の動き」として、医療と行政の対応の現状について学びました。一方、各方面の多大なご尽力によりこの4月から、妊孕性温存費用助成制度が発足しました。第2回は、妊孕性温存医療の実際と助成制度発足までの経緯や施行された制度の詳細を学び、保険適用について改めて考えます。

司会/経過報告

橋本 明子 NPO法人血液情報広場・つばさ理事長

講演

がん・生殖医療 一取り巻くさまざまな環境、解決すべき課題、これまでの進歩

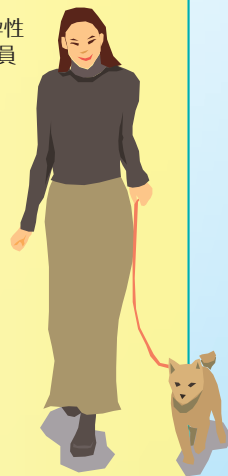
鈴木 直 先生

聖マリアンナ医科大学産婦人科代表教授/厚生労働省「小児・AYA世代のがん患者等に対する妊孕性温存療法に関する検討会」構成員/「厚生労働省がん診療提供体制の在り方に関する検討会」構成員

小児がん治療における妊孕性温存のタイミング

清谷 知賀子 先生

国立成育医療研究センター小児がんセンター



経験者のお話

山本 京 さん

2019年11月、26歳で白血病治療のため造血幹細胞移植前に卵巣を保存しました。費用は高額でしたが、自治体にあった助成制度で20万円受給しました。

後藤 千英 さん

つばさ妊孕性温存保険適用を目指す会担当理事

17歳でMDSと診断、29歳で悪化。2年間の輸血依存状態を経て、2012年に移植治療を前に卵子温存。その費用の高さに驚いて、つばさに保険適用申請を提案しました。

質疑応答/意見交換

講師の方々と会場にご参加の皆さま



フクラシア八重洲

〒104-0028

東京都中央区八重洲2-4-1

住友不動産八重洲ビル(旧ユニゾ八重洲ビル)3F

- ・ JR[東京]駅 八重洲地下街5番出口目の前
- ・ JR[東京]駅 八重洲南口より徒歩3分
- ・ 東京メトロ銀座線「京橋」駅7番出口より徒歩4分

※新型コロナウイルス感染防止対策は、6月時点の感染状況に応じて会場の対策法で行います。



NPO法人血液情報広場・つばさ
(03-3207-8503)
<http://tsubasa-npo.org/>



小児・若年がん罹患者の
妊孕性温存保険適用を目指す会
<https://ninyousei.net/>